

1. 方針検討の背景と目的

箕面駅周辺の現状

・ 阪急箕面駅周辺は、年間約250万人の観光客が訪れる「箕面の玄関口」であり、本市の商業機能、行政・公共機能が集約された重要な中心市街地です。
 しかし、近年は、少子高齢化をはじめとする社会・経済状況の著しい変化を背景に、公共施設を中心とする周辺施設の老朽化、商業の衰退等の課題が顕在化し、賑わいが失われつつあるため、TMO（箕面わいわい株）を中心として、箕面まちづくり協議会、箕面商工会議所、行政等が積極的に活性化に取り組んでいるところです。

箕面市のこれまでの取り組み

第四次箕面市総合計画 第2期実施計画（平成16年 3月）

・ 「既存市街地の整備」及び「商工業の活性化」について、優先すべき施策として位置づけています。

箕面市中心市街地活性化基本計画（平成16年 12月）

- ・ 箕面駅周辺 = 活性化重点整備地区
- ・ 箕面駅周辺 = 箕面市民交流ゾーン（広域交流拠点）
- ・ 箕面駅前広場 = 観光都市箕面の玄関口

【活性化重点整備地区・箕面地区の施策】

- ・ バリアフリーのまちづくり
- ・ 駐車・駐輪場の整備・改善
- ・ 箕面駅前広場の有効活用
- ・ 公共施設機能の再配置
- ・ 身近な生活回遊路づくり
- ・ ショッピングストリートの創出 など

みのおサンプラザ等公共施設再配置計画（平成17年 7月）

- ・ 中心市街地活性化基本計画に位置づけられた施策の実現を目標として、みのおサンプラザ1号館内の公共施設について、郷土資料館、市役所第二別館との一体的な再編整備を行います。
- ・ 現在は、本計画に基づいた施工の段階にあり、みのおサンプラザ1号館の地階部分については平成18年8月、その他の階についても平成18年度中にリニューアルオープンの予定です。

箕面駅周辺は、広域交流拠点、観光都市箕面の玄関口として、中心市街地の活性化に向けた位置づけがなされています。
 そして現在、TMO（箕面わいわい株式会社）による活動をはじめとして、活性化に向けた取り組みが積極的に進められています。これを機に、箕面駅周辺の公共施設（駅前広場・駐車場・駐輪場等）についても、利便性の向上等を検討する必要があります。

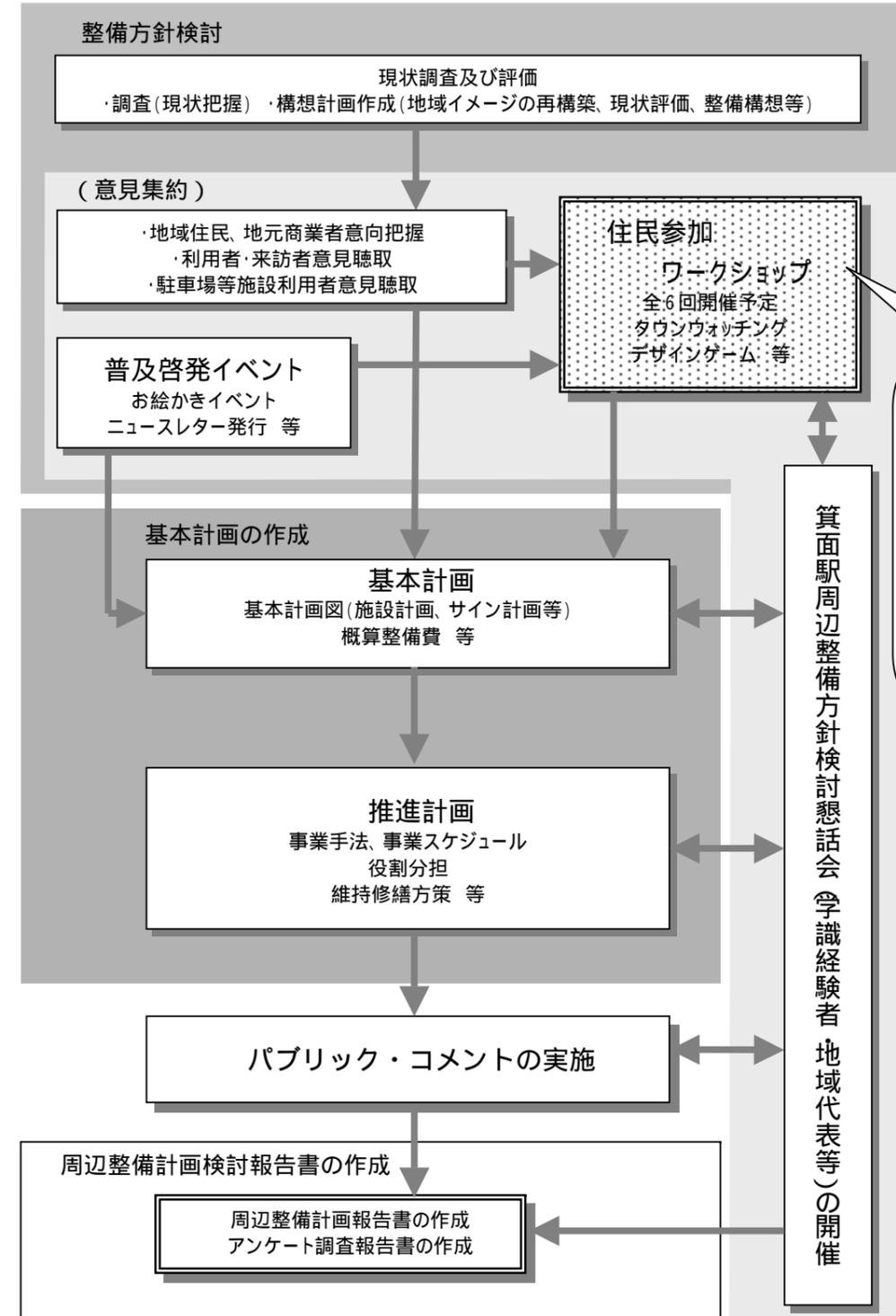
方針検討の目的

- ・ 箕面駅周辺の主な公共施設（駅前広場・市営駐車場・駐輪場・アーケード等）については、機能、設備、景観等の面で、それぞれに課題を有し、また、施設更新の時期にあることから、「箕面市中心市街地活性化基本計画」（H16.12）並びに「みのおサンプラザ等公共施設再配置計画」（H17.7）において、中心市街地活性化に資する再生の方向性が提示されています。

しかし、これらを個別に検討するのではなく、面的な一体整備の視点で、中心市街地の核である活性化重点整備地区に相応しい公共施設のあり方（互いの連携による相乗効果の創出等）を検討するとともに、市民、地元関係者の意向を反映した形での具体的な箕面駅周辺整備の方針を検討することから、整備方針検討を実施します。

2. 方針検討の進め方

・ 箕面駅周辺整備方針の検討は、次に示す手順で実施します。

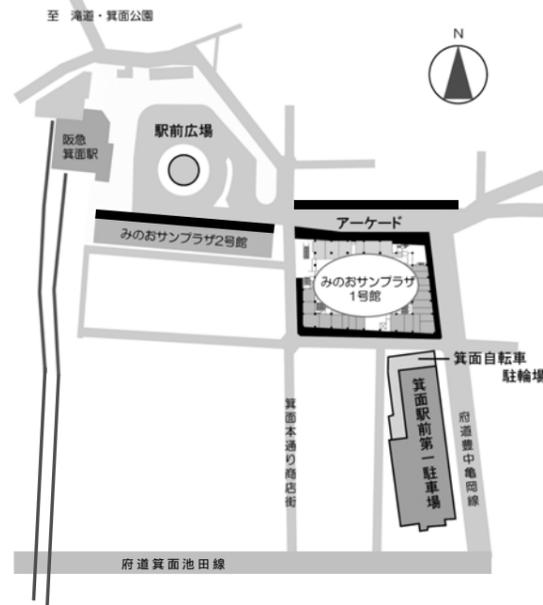


どんなまちにしてい
 べきなのか？
 何が問題で、どんな
 公共施設整備を進め
 るべきなのか？
 みんなで考え、整備
 方針検討に提案して
 いきます。

1. 地域の現状と課題の概要

検討対象の地域と施設

- ・ 検討対象の地区は、概ね阪急箕面線（西）及びみのおサンプラザ北側道路（北）、府道豊中亀岡線（東）、府道箕面池田線（南）で囲まれた地区となります。
- ・ 主な検討対象の公共施設は、箕面駅前広場、箕面駅前第一駐車場及び箕面自転車駐輪場、アーケード、その他 となります。



主な検討対象の公共施設の現状

駅前広場

- ・ 昭和 55 年に、駅前再開発事業における公共交通の拠点として整備されました。
- ・ 駅前ロータリーは築後 25 年を経て、バス・タクシーの乗車や自家用車の乗降時の安全性確保が課題となっています。また、ロータリーの中心部には、噴水が設置されていますが、現在は故障のため運転を休止している状況です。



箕面駅前第一駐車場及び箕面自転車駐輪場

- ・ 駐車場は昭和 55 年に開設された、みのおサンプラザの付置義務駐車場です。隣接する駐輪場は、昭和 63 年に開設されています。
- ・ 駐車場は身体障害者用設備やバリアフリー対応が不十分であるほか、築後 25 年が経過して建物の経年劣化が進み、外壁の汚れや鉄骨のサビが見られます。また、シンボルロードの景観を損なうとの意見もあります。
- ・ また、駐輪場は建物の老朽化に加え、出入り口の幅が狭く、大きな荷物を持つ利用者が通行しにくいこと、みのおサンプラザ 1 号館へのアクセスが悪いことなど、利便性の面からの問題点も指摘されています。



アーケード

- ・ 箕面駅前の商業集積や、通行者の雨避けの役割を果たしていますが、デザイン的に阪急箕面駅側や瀧道入り口からの視覚を遮断し、閉鎖的な印象を与えているほか、築年数が経過し、設備面での老朽化も課題となっています。



共通の問題点と課題

【共通の問題点】

- ・ 広域交流の結節点として、視覚的、機能的に相応しい状態ではない。
- ・ 機能、動線の面で利便性が悪い。
- ・ 設備、構造の面で老朽化が進んでいる。



【課題】

- ・ 公共施設を中心とする駅周辺の施設については、「箕面の玄関口」に相応しい役割と魅力を備えた施設として、機能、設備、外観等の改修が必要。
- ・ 回遊性を効果的に生み出す動線計画についても検討が必要。

2. 地域のアメニティ機能の状況



・駅前広場に向かってついたてのように再開発ビルが建つ。しかし、3階に抑えられている分、圧迫感は比較的抑えられている。



・水をまちに生かすのは大切なことであるが、水量が十分あるとは言い難い。



・かつての箕面街道沿いに形成された古くからの商店街。
・通りの幅、建物の高さがヒューマンスケールで、心地よいショッピングモールとなっている。アーケードがないのがよい。
・所々にさりげなく置かれているベンチがよいが、数としてはやや少ない。



・新しく建つマンションの住民が、商業地としての顧客になる。



・店舗がなく、少し通りが広いので、箕面池田線と商店街が分断された印象。
・特に、あさひ銀行駐車場の植え込みブロックが高いことが、これを助長している。

・箕面地区におけるにぎわいのメインストリートのイメージがあるが、店舗数はやや少ない。



・周辺の駅と比べると相当広い駅前広場
・中央のモニュメントは、地域のイメージを感じにくいものとなっている。
・広すぎるのがかえって観光客動線と商店街との分断要因となっている。

・通りがさみしい
・伝統的な建物が見受けられ、これを生じた雰囲気づくりの可能性がある（観光との連携）。

・アーケードが重厚で、全体的に暗い印象。

・店舗が内向きになっており、通りのにぎわいが少ない。このことが、北側のさみしさに影響を与えている（にぎわいは沿道両側でつくるもの）。

・8階建ての高層ビルで、まちに対して閉鎖的で、光を遮るなどの影響で少し暗い。

・駐車場が老朽化しており、通りの景観に大きな影響を与えている。
・にぎわいの分断要素となっている。

・地下や奥まっている店のづくりが、暗い印象を与える。

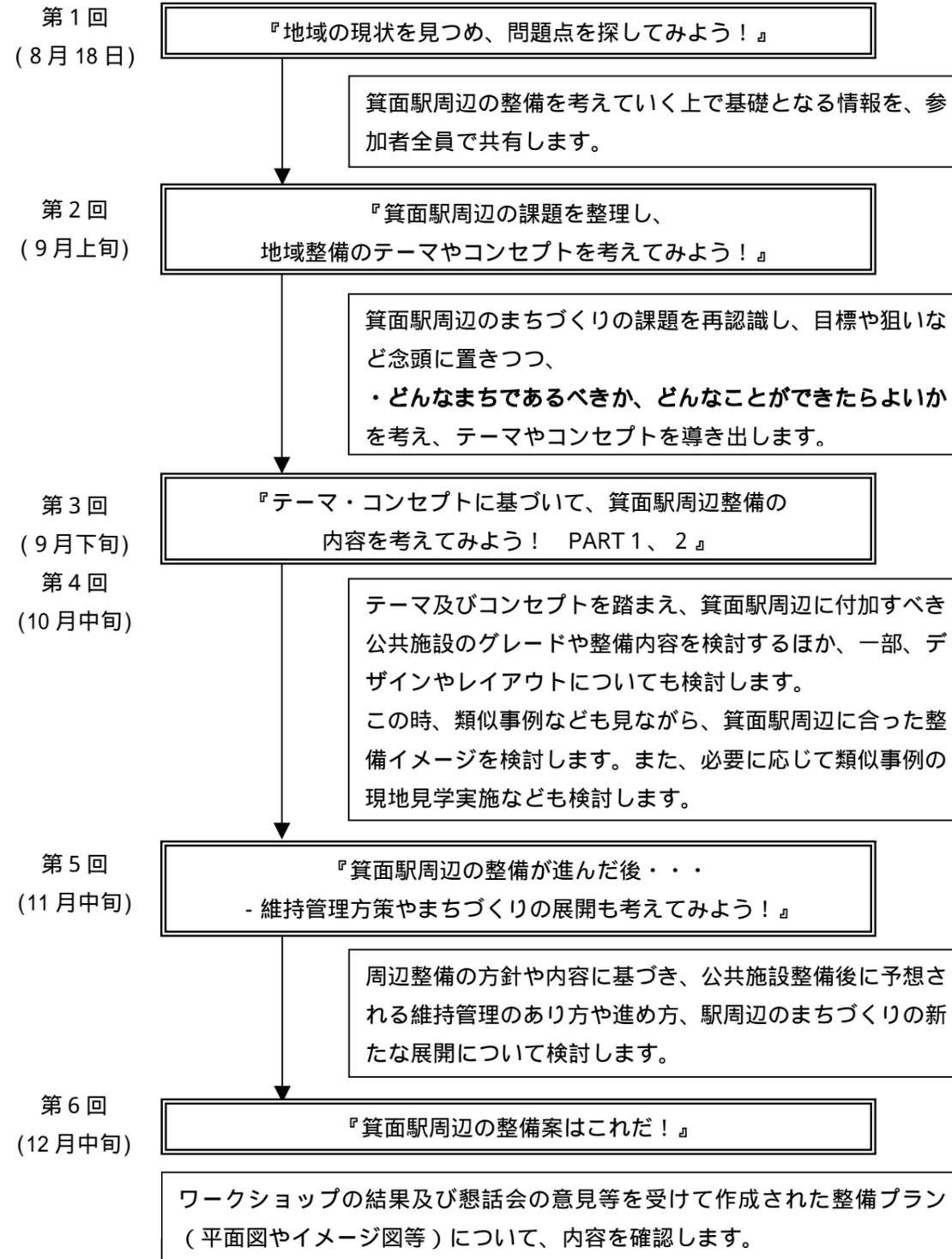
・スクランブル交差点となっており、人の往来が、賑わいを醸し出している。



「みのおサンプラザ及び本通り商店街周辺を対象とした現状評価」（平成17年度（2005年度）箕面市）より抜粋

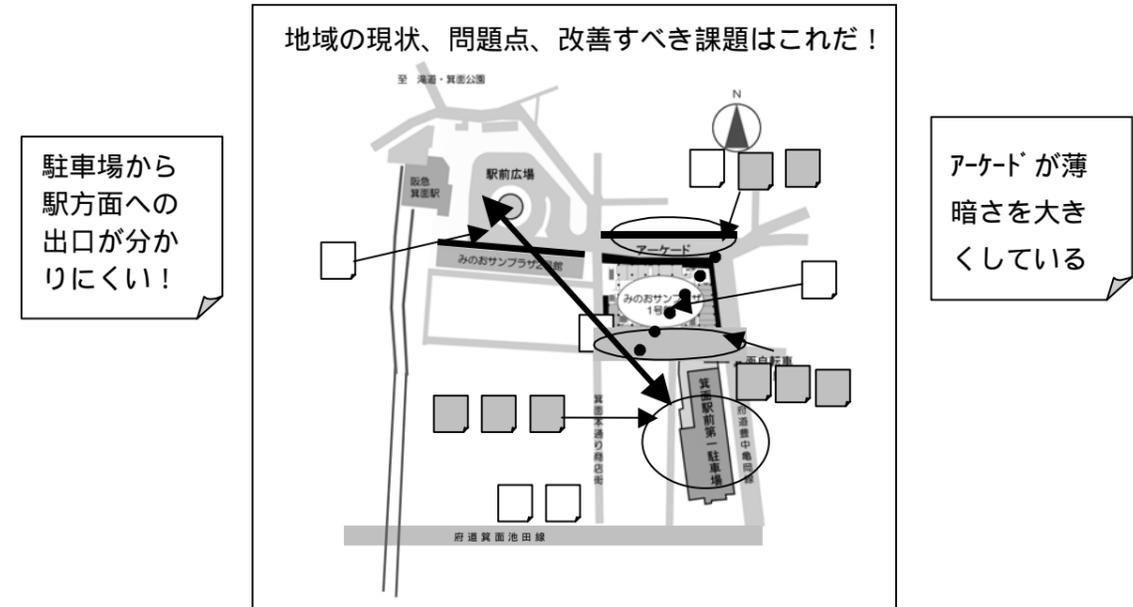
1. ワークショッププログラム(予定)

- ・ワークショップは、地域住民や商業者の様々な意見集約の場として開催します。
- ・全6回の開催を予定し、出し合った意見や公共施設整備のアイデアを懇話会に対して提案していきます。



ワークショップのアウトプットイメージの例

第1回：地域の現状と問題点、改善すべき課題の再確認



ワークショップで考える前に注意しておくべきこと

1. 主な検討対象は、「駅前広場や駐車場、駐輪場、アーケード(街路)などの公共施設」
 - (1) 今回の検討は、駅前広場や市営駐車場、駐輪場、アーケード(街路)などの公共施設です。
 - (2) これら公共施設の美装化や改修、補修、部分的な機能の追加・更新が主な検討テーマです。
 - (3) 個店や商業ビルなど、民間施設の問題点やあり方について意見を出して頂いても構いませんが、今後の検討課題としての整理にとどめます。
2. 事業期間は、箕面市中心市街地活性化基本計画の「前期途中から中期(平成19~23年度)」
 - (1) 整備内容は、平成23年度までに実施可能なものについて取捨選択する必要があります。
 - (2) 後期(平成24~26年度)及びそれ以降の長期的な課題(平成27年度以降)については、今後の検討課題としての整理にとどめます。
 - (3) 駐車場の建て替え自体は、平成27年度以降の長期的な課題のため、本事業では実施しません。
3. 主な検討対象の規模は、「現在の敷地の範囲内」
 - (1) 駅前広場、市営駐車場、駐輪場などの検討対象の規模は、現時点での敷地の範囲内を基本とします。
 - (2) 敷地の拡張などは検討の対象とはしません。

2. ワークショップの進め方

1. ワークショップって何？

- ワークショップとは、集団で議論を行い、計画づくりなどを行う作業のことです。ワークショップは、特定の考えや意見に偏ることなく、参加者一人ひとりの意見が反映されるような仕組みになっています。また、一般的な会議とは違い、少人数のグループ毎に分かれ、和やかな雰囲気の中で楽しみながら議論や作業を進めていくという特徴があります。

2. ワークショップ方式にはこんな長所が！

- 参加者を選ばない：会議形式の議論よりも作業自体を重視し、また、参加者に応じた手法を選択することができるので、子どもから高齢者まで誰でも参加できます。
- 効率が良い：その場（リアルタイム）で論点が視覚的に表現されていきますので、一つのことで話が前に進まなかったり、論点が見えなくなるような非効率的な部分がほとんどありません。
- 堅苦しくない：少人数のグループで進行していくため、一般的な会議とは違って形式張らず、発言の自由度が広がります。このため、本音や自由なアイデアも出やすくなります。

3. ワークショップの形式

- ワークショップには進行役として「ファシリテーター」が入ります。ワークショップ全体の進行管理のほか、意見を出やすくしたり、まとめたりします。
- ラウンドテーブル形式で、前に立つファシリテーターが意見を聞きながら1つの成果をまとめていくスタイルや、少人数のグループに分かれ、「5～8人程度の参加者」と「テーブルリーダー」で構成してグループ毎に成果をまとめるスタイル等がいろいろあります。
- テーブルが分かれる場合は、「テーブルリーダー」が各グループの会議を進行します。話が極端にそれることを防いだり、時間配分の調整が主な役割です。ただし、結論を出す権利などはありません。

4. ワークショップのルール

- ワークショップでは、参加者の意見を十分に成果に取り込むために、次のようなルールのもとで行います。

参加者同士が対等な立場で、みんなで協力して取り組みましょう。

他の参加者の意見もしっかり聞きましょう。

他の参加者の意見を批判、中傷してはいけません。反論も、同意見も全て答えの一つとして対等に扱います。

ご自身が考えたこと、思いついたことをペンで色付箋に記入し、それに沿ってグループ内の意見交換を行って下さい。

～ワークショップの基本的な流れ～

自己紹介・自由なディスカッション



和やかな雰囲気づくりを心がけましょう

テーマについて気軽に話し合いましょう

みなさんの意見も聞きましょう

ポストイットに書き込む



マジックペンではっきりと大きな字で書きましょう！

名前

書き込んだ内容を貼り出す



意見を発表しながら図面に貼り出しましょう

グループでの意見交換



出し合った意見について話し合い、知識やアイデアを共有するとともに、新たな発想を育みましょう

グループピング



マーカーを使って見やすくまとめましょう